

CONTENTS



- 2/3 アブダビで署名国会議
- 沖縄県知事選挙は正念場
- 4/5 COP10 報告
- 6/7 南山大学でレクチャー
- 読書室
- 東恩納さんからお礼のメッセージ
- 8 お知らせ

来る 11 月 28 日の日曜日。沖縄県知事選挙が行われる。現職の仲井眞弘多氏と、宜野湾市長を辞して立候補した伊波洋一さんとの、事実上の一騎討ちである。その投開票の結果が、沖縄県のみならず、日本の命運を左右することになる。辺野古に新基地を要求する米日軍事政権にとっても、今後の政治行動に重大な影響を与える沖縄県知事選である。

もし現職が再選されることにでもなれば、それは即、日米軍事同盟による最終的な琉球処分への道が開かれることを意味する。自公政権より右傾化した今の管民主党政権にとって、抑止力と経済政策を盾にして、宮古・八重山与那国に到る島々に、軍事要塞化の道標を立てることは、日本の国家体制の護持の為に、どうしても必要なことであろう。

「伊波洋一さんを沖縄県知事に！」 SDCC 共同代表 海勢頭 豊

その悲願を達成するには、これまでぶれまくって対応してくれた仲井眞現知事の再選に期待する他はない。例え米軍が沖縄から撤退しても、すでに日米軍事同盟で一体化した自衛隊が、沖縄の島々を軍事支配下に置くことが出来ればそれでも良いし、例え仲井眞氏が意地を張り通して、辺野古移設を断念することになるにしても、軍隊によって琉球を歴史の真実から抹殺することに変わりはないから、それで良いことになる。

だが我々は、その最悪のシナリオの画策を絶対に許してはならない。如何なることがあろうとも、我々が代表として知事候補に押し立てた伊波洋一さんを勝利させなければならないのだ。沖縄を平和の聖地として再び浮かび上がらせ、憲法より日米軍事同盟を優位にする今の日本の病魔を治さないかぎり、我々人類に未来は無いからである。しかしそれなのに伊波洋一さん知らない若い世代が多いのが気になる。投票日までの残された期間に、総力を上げて危機を訴え、投票所に足を運び必ず伊波洋一新知事を誕生させるよう、最大の努力を尽くさなければならない時である。

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp



COP10-Expo ゾーンで歌舞団の手踊りと2頭の着ぐるみジュゴンちゃんが SDCC フォーラムの宣伝 (4 面)



COP10 会場前での NGO 共同宣言でジュゴンもアピール



ジュゴン保護は世界の流れ

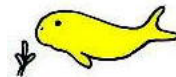
～アブダビで署名国会議

10月4日、アラブ首長国連邦の首都アブダビで、ジュゴン保護覚え書き第1回署名国会議（SS1）が開かれました。2005年オーストラリアとタイ政府が呼び掛け、2007年に「覚え書き」を作成。2008年IUCN決議（バルセロナ）の「すべてのジュゴン生息国は覚え書きに参加すること」をふまえて開催されました。48生息国のうち29カ国、90人の参加。当日署名したパラオ共和国などを含めて署名国は18カ国になりました。残念ながら、日本政府は参加しませんでした。

今年4月、私たちや事務局からの参加要請にもかかわらず、日本政府は「今年は忙しい」「署名すれば拘束される」などと後ろ向きの態度に終始しました。辺野古での新基地建設問題があるからです。SS1の目的は、2国間レベルでジュゴン保護のために調査や研究、対策を検討するためものです。理論的なイニシヤティブを發揮しているヘレン・マーシュ教授（オーストラリア）は「島しょのジュゴン、とくに沖縄とパラオが危機だ」と基調で明らかにし、「調査の時は終わった。行動あるのみ」と強調しました。私たちの取り組みの重要性が浮き彫りになりました。



会議には29カ国
90名が参加



SDCC スタッフの報告の様子

事務局からは、2012年の第2回会議（SS2アラブ首長国連邦）までに、ボン条約（移動性野生動物の保護）やラムサール条約（湿地の保護）と連携しながら、共通の調査票でジュゴンの生息の聞き取りを進めることを確認しました。この調査を効率的に進めるためにも、遺伝子研究や調査活動が進んでいる、また資金力がある日本政府に期待が高まっています。生物多様性条約COP10議長国でもある日本政府は積極的に「覚え書き」に参加すべきです。

私たちはオブザーバー参加ですが、サイドイベントで「沖縄ジュゴンの危機的な現状と私たちの取り組み」を30分間報告しました。ヘレン・マーシュ教授をはじめ主だった学者、研究者、事務局のメンバー、東南アジア諸国やインドなど30人の参加者から、日本の環境アセスや種の保存法の実態、ジュゴン訴訟の現状など次々と質問が出されました。科学を活用して頑張るとの私たち決意に、出席者からは「グッドジョブ」との声が出ました。事務局 蛭川義章



ヘレン・マーシュ教授



パラオ共和国が署名



沖縄県知事選挙は正念場



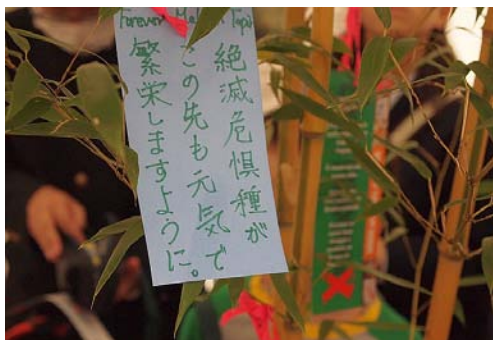
11月13日オバマ大統領は来日する。しかし、米国家安全保障会議の上級部長は日米共同宣言の策定を見送ることを認めました（10月29日沖縄タイムス）。11月28日沖縄県知事選挙があるからです。1月名護市長選挙、4月の沖縄県民大会（9万人参加）、9月名護市議会選挙（市長派が過半数）、10月名護市議会「日米合意の撤回を求める決議」を採択。辺野古への新基地建設が困難であることが明らかになっています。

沖縄県知事選挙は民主党が第3の候補の擁立ができなかったため、仲井真知事と伊波宜野湾市長との一騎打ちとなりました。仲井真陣営は「日米共同声明見直し、県外移設」と争点を隠すことに必死。だが、県内移設反対とは言わない。一方、伊波市長は「辺野古移設を葬りたい」と明快です。

民主党政権は普天間の辺野古移設を進めるために仲井真知事を支援しています。10月25、26日と6年ぶりに沖縄政策協議会を開き「基地負担軽減と振興策」を協議しました。11年度末に期限が切れる沖縄振興特別措置法。その延長を材料に仲井真知事を支援し、取り込むことを狙っています。伊波氏の当選で辺野古移設を断念させよう。

ジュゴン保護の国際連帯を

10月30日午前2時、生物多様性条約（CBD）第10回締約国会議（COP10）は閉幕しました。2010年目標が達成できなかったCOP10の役割は「生物多様性の損出をくいとめる」ための目標（ターゲット）と緊急な行動を決めることでした。私たちが参加するCBD市民ネットはCBD事務局や日本政府に働きかけて、2010年国連国際生物多様性年を10年延長し2020年までを「国連生物多様性の10年」とし、モニタリングしながら目標達成に向けてあらゆるセクターが参加する決議を提案してきました。しかし、マスコミは連日、



COP10 会場のブースに飾られていた短冊

ABS 議定書（遺伝資源の利益配分）ばかり取り上げ（企業社会では当然かもしれませんが）、「国連生物多様性の10年」についてほとんど取り上げませんでした。

最終日の29日に、「2020年までに生物多様性の損出を止めるために、実効的かつ緊急の行動を起こす」と生息地が失われる速度の半減と、陸域17%、海域10%を保護地域とすることを決めました。日本が提案している「国連生物多様性の10年」は12月国連総会で採択することが決まりました。

CBD会議は枠組みを議論するもので、国際自然保護連合（IUCN）のようにジュゴンなど個々の絶滅危惧種について議論するものではありません。しかし、「生物多様性に関する国際先住民族ネットワーク（IIFB）」の発言「辺野古・大浦湾での軍事基地建設とそれが生物多様性に与える影響に憂慮し」（29日、本会議）に明らかのように、国際会議場内外での沖縄BDネットや私たちの取り組みが反映しました。2012年まで議長国である日本政府に「議定書とターゲットにしっかりと魂を入れる」（松本環境大臣29日）ことをさらに国際連帯で要求していきたいと思ひます。

COP10でジュゴン保護フォーラム

10月23日 生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）会場近くの名古屋学院大学で、「ジュゴン保護と日本の国際責任」と題したフォーラムを開催しました。参加者は約90名で70名定員だった会場は立ち見ができるほどでした。

代表の挨拶には始まり、吉川秀樹さん（SDCC国際担当、沖縄BDネット事務局長）、河村雅美さん（同事務局次長）に国際的な観点からのジュゴン保護とジュゴンの文化的意義について話していただきました。

吉川さんの話は沖縄ジュゴンの生態、減少の原因からは始まり、沖縄の人にとってのジュゴンの存在、そして、ジュゴン保護の世界的な動きの中で行われたジュゴン覚書第1回署名国会議へと展開していきました。話の最後は「国内からも、そしてIUCNやボン条約事務局など国際的な機関からも沖縄ジュゴン保護の重要性を訴えていくことで、日本政府の責任ある行動を求めていきたい」という強いメッセージで締めくくられました。

河村さんからは米国国家歴史保存法に基づくジュゴン訴訟の勝訴の経緯から見えてきた沖縄ジュゴンの文化的価値、辺野古基地建設をアメリカの事業として認めさせた重要性、また、基地建設にあたり米国国防総省は沖縄文化を壊さない方法を裁判所に提示の義務があることなどを聞きました。生物多様性条約にも文化・環境・社会



的影響アセスのガイドラインが存在し、河村さんはジュゴン訴訟、生物多様性条約を通して「土地を奪わないで、文化を壊さないで」という沖縄の人の声が聞こえてきたと話しました。

参加者からは「2つの新鮮な視点をいただき、とても希望がもてた。国際的な、そしてローカルな視点でこれから何をしようかと考えた」という感想をもらいました。

このフォーラムは国際会議のサイドイベントとして、英語と日本語で行われ、外国の方も参加してくれた点、WWF ジャパンの沖縄の生物多様性のフォーラムと連携して行えた点で国内、国際的に沖縄のジュゴンの重要性を訴え、保護区作りを目指しているSDCCにとって、内容と共に意味深いフォーラムになったのではないのでしょうか。 関西・正阿彌宗子

報告

～COP10特集～

10月18日から名古屋でCBD-COP10（生物多様性条約 第10回締約国会議）が開催されました。私たちSDCCもCBD市民ネットのメンバーとして会議に登録して参加してきました。開会前日のパレードから、会期中の交流ブースでの出店PR、サイドイベントでのフォーラム開催など、世界から集まった参加者に沖縄のジュゴン保護についてアピールしてきました。

1000人パレード

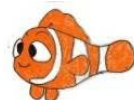


COP10の本会議前日、いまじんウォークの「1000人パレード」が行われました。「いまじんウォーク」は、揖斐川上流の徳山ダムと、豊川上流の設楽ダムの計画地から、身近ないのちと自然を体感しながら11日にスタート。多くの地域住民と触れ合い交流しながら17日に若宮大通り公園で合流。「1000人パレード」へと繋がりました。

パレードは思い思いのスタイルで「いのちの鼓動を世界の人々に届けよう」と、メッセージを発信しながらCOP10会場の国際会議場に向かって行われました。

わたしたちSDCCは、着ぐるみジュゴンを先頭にアピール！！紅型衣装にジュゴン折り紙ハットを被り、小さな折り紙ジュゴンを沿道の人に手渡して「基地ではなくジュゴン保護区」を訴えました。東京との違いは沿道の人達が手を振りパレードを応援してくれたことです。暖かい声援がとても嬉しかったです。1000人パレードのエネルギーを大事に今後の活動に繋がりたいと思いました。（首都圏 宮城詔子）

ブースで沢山の出会い



熱田神社公園内に、多数のNGOと一緒に大テントにブースを開設。準備した手作りグッズも限られたスペースで飾りきれない物が多数ありましたが、綺麗なブースができあがり物品販売と署名を集めました。日に日にお客様も増え、いつも賑わっていました。会場近くの保育園の園児や小学生、中学生など学生が多数来てくれました。「ジュゴンって知っている？」に園児や小学生は「知ってるよ、鳥羽水族館で見たよ～」と多くの子供が答えていました。名古屋の会員さんがブースを探して来てくれたり、地元の人々は「沖縄にジュゴンがいるのを知らなかった。守らなくちゃね」と快く署名してくれました。

3日目に、ツイッターで取材要請していたgreen-tvが来てくれました。英語でのインタビューでした。また、ツイッターを見て来てくれた方もあり、ツイッターの効果は凄いですね。

同じテントのNGOの方々とも交流ができました。沢山の出会いがあり、広がりを感じました。（首都圏 矢敷克子）



国際会議場内でも大人気の折紙ジュゴン



国際先住民フォーラムの会議で沖縄の状況を説明 (3面参照)



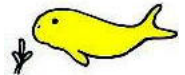
連日の絶え間ないブース来訪者で1800筆の署名が集まりました！



バラオの皆さん (2面参照)

世界の流れに遅れるな〜!

COP10 海外参加者との交流



開会式前日、会場まで歩く「1000人パレード」に参加し、韓国の慶南ラムサール環境基金の方と知り合いました。ジュゴンの危機的状況や、沖縄本島に米軍基地が集中していることにびっくりされていました。

2012年のIUCN世界自然保護会議は、韓国のチェジュ島で開催されます。韓国のブースでIUCN担当の方に、「私たち行きますよ〜!」という、話がはずみました。チェジュ島は韓国政府から差別と弾圧を受けた島。韓国ではチェジュと沖縄に共通点を見いだす方も多いようです。IUCNチェジュに向けて、いくつかのつながりが出来ました。

インド政府のブースに行ってみると、たくさんの生きもの写真の中にジュゴンの写真がありました! インドでもジ

ュゴンは数が減り、100頭ぐらいになっているのですが、政府の保護策により少しずつ増えて来ているとのこと。インドのマナル湾海洋国立公園では、ジュゴンをはじめ様々な海生生物の保護が行われているそうです。

23日のフォーラムチラシを配っているときに出会ったスリランカの方は、ジュゴン保護プロジェクトを進めているそうです。内戦が続いたスリランカでは、今も民族対立が残っていて「沖縄と共通の課題を持っている」とおっしゃっていました。

厳しい政治情勢の中でも、真摯に環境保護に取り組む方たちと知り合えたことは大きな財産です。ジュゴンをめぐる情勢は厳しいけれど、世界の人たちとつながることで、保護を進めていけると実感しました。(関西・山根富貴子)



ジュゴンの保護策に取り組むインド政府の方々(両脇)と

スリランカのジュゴン保護に取り組む方(左)とアメリカの研究者(中央)



市民ネットのフォーラムでNGOとして発表

沖縄ジュゴン〜絶滅の危機
 * 沖縄本島北部東海岸を中心に数十頭
 * 赤土流出で海草藻場が破壊、魚類で窒息死
 * 97年米軍基地建設計画から13年
 ~2010年着工・14年完成予定

報告

グローバル対話フォーラム

10月27日午前、生物多様性条約(CBD)市民ネットワークは「国連生物多様性の10年と、それに向けたNGOの活動」のフォーラムを開きました。出席者は100人。国際会議場内では、菅首相が閣僚級会議で「国連生物多様性の10年」の採択を条件に、途上国が国家戦略を作成し実践するために3年で20億ドル支援することを発言したとの速報が入ってきました。

冒頭、田島一成・前環境副大臣から政府の取り組みを報告。つづいて、CBD市民ネットから2010年目標の失敗をふまえて、「国連生物多様性の10年」と、米国を巻き込むためにCBDの枠組みを越えて国連の枠組みを活用するNGOイニシャティブ・NGO宣言が提案されました。

NGOの活動計画を、コスタリカの世界湿地ネットワークや「かけっぴちの生物多様性キャンペーン実行委員会

とともにSDCCCが報告しました。

「基地ではなく、ジュゴン保護区」の実現に向けた2008年IUCN決議(スペイン)や、今年10月のジュゴン保護覚え書き第1回署名国会議(アブダビ)での取り組みを報告。ジュゴン生息国が日本政府に技術力や資金力を求めているからこそ、2012年第2回署名国会議に参加する国際責任があることを明らかにしました。また、COP10議長国の今こそ、種の保存法の改正を実現することは可能です。そのために、現在集めている署名の提出(約4万筆)と交渉や、アブダビ会議とCOP10の報告集会など、2012年IUCN(国際自然保護連合)第5回世界自然保護会議(韓国・チェジュ島)にむけた活動を進めていきます。(蜷川義章)

★名古屋 COP10 開催中に、南山大学でレクチャ

26日COP10会場を後にしてスクールバスに揺られ南山大学瀬戸キャンパスに向かいました。目崎茂和教授(環境学)の計らいで、総合政策を学ぶ学生約300名に2コマの講義をさせて頂きました。COP10にどれくらい関心を持っているかな?一人一人が行動を起こすきっかけになればいいなと楽しみにしていました。レクチャーの内容は山根さんからジュゴンの生態と現状、基地とジュゴン、池側から地元の取り組み、SDCCの取り組み、蜷川さんから国際的なジュゴン保護の動きを話しました。



みなさん真剣に受けとめ、もっと関心を持ってできることをやっていきたいと感じてくれたようです。それはアンケートからもわかります。「沖縄の海、ジュゴンを守るということが世界の平和につながるという考えが素敵でした」「同じ1つの地球で生きている生きものはみんな幸せになる必要があるというのに納得しました。私たち人間が、みんなが幸せに暮らせる環境をつかっていかなければ」「この講義を受講していなかったら、知らない、自分には関係ないと受け取っていたと思うと後悔していたと思います」「私たちが動かなければ、SDCCにも興味を持ち、ゼミ合宿で沖縄へのツアーを企画してみます」「もし自分の町に基地があったら?の問いかけに他人事でしかなかったと感じた、現場の人々のこともっとそこに目を向けなければ」「今の社会というものを考える良い機会になりました」など他にもたくさんあります。

講義中に署名を集めさせて頂き、私も力になりたい、集めて送りますと用紙を持って帰ってくれた人もいて134筆も集まりました。良い機会をつくって下さったことに感謝しています。『沖縄の基地はヒューマンパワーとジュゴンパワーでなくせる気がする!』という嬉しい感想もありました。若い力に大いに期待したいです。

関西・池側恵美子

SDCCでは9月18日に関西事務所で「COP10に行こう!」という説明会を開いてCOP10サポーターを募集したり、COP10を広めるために取り組んできました。

10月7日、関西大学前で署名を集めると共にCOP10に向けてチラシを配布しました。学生の人にCOP10をもっとアピールしてできれば参加してほしいね、という話からどこかの大学前でジュゴンちゃんと一緒にアピールしようとなったのですが、関西大学を選んだのは関西でも学生数が多い大学だったからです。

関大前行動～!

大学の前でやるのは初めてでしたがジュゴン着ぐるみは効果絶大でみなさん集まってくれました。下校時を選んで、PM4時から正門前で始め1時間する予定でしたが30分ほどで持ってきたチラシは完配! COP10を知っている人は少なかったですがこれで少しでもCOP10のことを知ってもらえたかな?! ジュゴン保護のこともアピールできたと思います。署名も学生さんだけでなく大学にお勤めの人や関連業者の方々、たまたま道を歩いている人などたくさんの方にさせていただきました。大いなる成果だったと思います。今後の課題はいかに学生を取り込んでイベントに参加してもらうか・・・です。

関西・上田 千鶴

若い力に期待!



「名古屋でCOP10があるの知ってる?」

「知ってる! 地球の未来を決める会議でしょ★」



読書室

『生物多様性とは何か』

著者：井田徹治 岩波新書
定価720円（税込756円）



「アフリカの角」とは？アフリカの北東部に突き出したソマリアやエチオピアなどの地域です。ここが2005年に環境保護団体コンサーベーション・インターナショナルによって「生物多様性のホットスポット」に指定されました。「ホットスポット」とは固有の植物種が多いにも関わらず、もとの植生が急速に失われており、そう遠くない未来にすべてが失われてしまう貴重かつ緊急な行動を要する地域です。しかし「アフリカの角」はソマリアをはじめ内戦によって、社会が荒廃し自然保護どころではなくなっています。一方、意外かもしれませんが、日本も「ホットスポット」に2005年に追加されました。固有の植物種が多いことが理由です。そのなかで、もっとも植生が豊かで固有種が多い沖縄・ヤンバルの森と海は「ホットスポット中のホットスポット」と言ってよい地域です。

生物多様性は、食料などの供給、気候や水質浄化などの調整、更に文化的な意味で人類の生存条件そのものです。それが急速に失われているのが、ソマリアであり沖縄です。植民地支配とその後の生物資源を含む資源略奪、そして米軍基地による支配。これが貧困を生みいっそうの環境破壊へつながる。これは人類全体の問題です。だからこそ「平和 人権 環境」を結んだ市民の活動が重要だと、本書は示唆しています。COP10での政府間での合意がどうなるにせよ、生物多様性を守るのは私たち現場の市民です。

関西・松島洋介

おめでとう！
琢磨さん



東恩納琢磨議員からお礼のメッセージ



期待しています！

9月市議会選挙で、前回は300票以上上回る1059票で再選しました。SDCCからのスタッフ派遣とカンパのおかげです。有難うございました。1999年名護市議会での「新基地建設促進」を求める決議のときは傍聴席からヤジを飛ばしていましたが、今年10月15日「県内移設の日米合意」の撤回を求める決議の可決に一議員として参加できたことは嬉しい限りです。沖縄県知事選挙の勝利に向けて、名護市役所から沖縄県庁に向けて名護市長を先頭に自転車で道ジュネーをします。皆様のご協力をよろしくお願いします。

また、来年夏のジュゴンの里ツアーを、名護市長の公約「農業と滞在型観光で地域おこし」を支えるものとして頑張らしましょう。

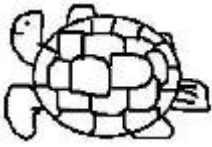
(10月30日にSDCCがインタビューしたものをまとめました)



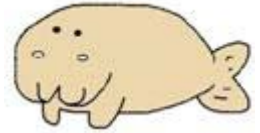
ポスターセッション

COP10 会期中、会場そばにある名古屋学院大学の体育館でポスターセッションが行われました。SDCC はアブダビでの会議報告と議長国の日本政府の責任についてをメインに展示しました。たくさんの団体の写真や解説が、広い会場に並んでいたの、少しでも目立つようにと、大きなジュゴンの写真や折り紙で工夫しました。





名古屋COP10 & アブダビ会議参加報告会



SDCCは、10/4~6 ジュゴン保護覚え書き署名国会議(アブダビ)と10/18~29 名古屋COP10(生物多様性条約・第10回締約国会議)に参加しました。2つの会議から世界の動き、日本政府の対応、SDCCの取り組みを報告します。名古屋COP10ではブース、フォーラム主催と様々な取り組みを展開し、海外からの参加者、NGOと交流を深めました。楽しい報告もあります♪これから私たちにできることを話し合しましょう。

大阪報告会

日時： 11月20日(土) 18:30~20:30 (開場18:00)
 場所： 大阪市中央区民センター・第4会議室
 最寄り駅： 地下鉄堺筋線・中央線「堺筋本町」3番出口
 資料代： 300円

東京報告会

日時： 12月5日(日) 13:30~16:30 (開場13:10)
 場所： 港区勤労福祉会館
 最寄り駅： JR田町駅 地下鉄浅草線・三田線三田駅
 資料代： 500円

*どちらの報告会も予約は不要です。皆様のご参加お待ちしております。

COP10ブースは大にぎわい☆



ブースは連日大にぎわいでした。ボランティアスタッフとしてブースをお手伝いしてくださったみなさま、ブースを訪れてくださったみなさま、ありがとうございました。また、普段なかなかお会いできない名古屋の会員さんと交流会を持つことが出来ました。

Editor's Note

10月はCOP10で大忙しでしたが、とても楽しかったです。国内外の多くの方々との出会いは、今後の糧になります。どこへ行ってもまわりの人々のあたたかいサポートに支えられていることに感謝!です。(Y)



中学校から 署名が500筆

10月生物多様性条約COP10が開かれる名古屋の中学生から署名が500筆送られてきた。文化祭・恵愛祭で「ジュゴンを救え」のテーマを取り組んだ名城学院中学校の3年生。学習を積み重ね「ジュゴンのえさ場を守りたい。新たな基地建設を許さない」との思いで、SDCC署名を文化祭参加者から集めてくださいました。お礼を兼ねて、皆さんにご紹介します。

アブダビカンパありがとうございました♪

ジュゴン保護覚え書き第1回署名国会議(アブダビ)への参加カンパを有難うございました。259,710円のカンパを参加した2名の旅費と宿泊費に充当します。

☆11/25 署名提出します☆

11月25日に、環境省・防衛省に署名の第2次提出を予定しています。10月末現在の署名数は約13000筆。第1次提出との累計は約43000筆になりました。皆様のご協力に感謝いたします。日本政府は2012年まで、あと2年間議長国の任にあたりますので、保護区設置を求めて11月以降も署名継続します。第3次集約は来年3月末です。皆さまの更なるご協力をお願いいたします。

ジュゴンちゃんぶるニュース VOL.53 2010年11月9日発行
 ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
 Tel/Fax 03-5228-1377 〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-21
 第1千代田ビル301 なかま共同事務所内
 ○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp
 (関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302
 TEL/FAX 06-6353-0514

